

トピック ― 加工・業務用野菜仕入価格等調査の概要 ―

野菜の加工・業務用需要が高まるなかで、実需者や中間事業者のニーズ、取引実態等に応じた国内生産の体制整備を図ることが重要となっている。このため、今般、機構において、生産者・ＪＡ等と直接取引を行う実需者・中間事業者を対象に、加工・業務用野菜の仕入状況等に関するアンケート調査（調査対象：カット等の一次処理をしないホール野菜）を実施したので、その概要を紹介する。

(1) 仕入状況

加工・業務用としてホール野菜を仕入れた実需者・中間事業者は全体の60%を占め、業態別には、漬物製造業が78%、青果卸売業が68%、カット野菜製造業が100%であった。

(2) 規格・サイズの有無と価格の設定方法

加工歩留まりの確保などのために、回答者の91%で仕入れの規格・サイズが設定されており、仕入価格の設定方法では、生産費や製品価格などに基づく「固定価格」が52%、次いで「市場連動」が25%、固定価格を定めた上で購入時の卸売市場の価格動向を考慮する「固定＋市場連動」が23%を占めた。

(3) 国産原料野菜の利用状況

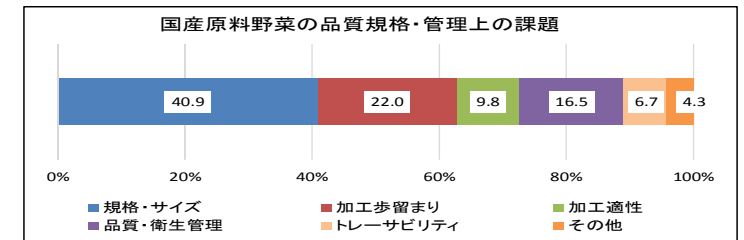
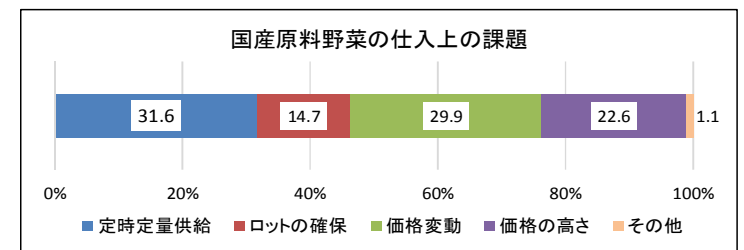
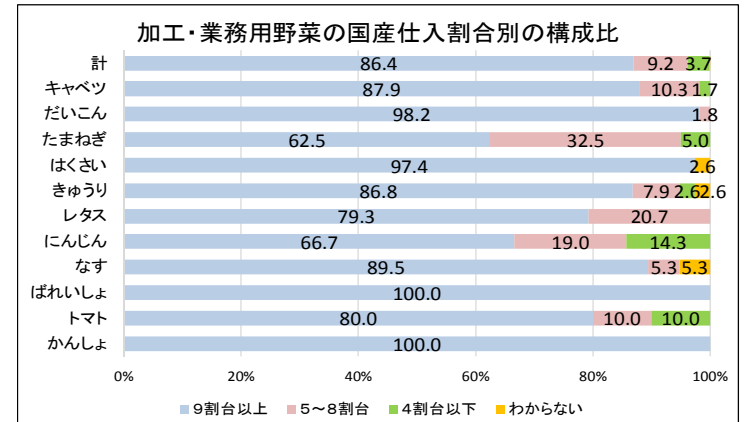
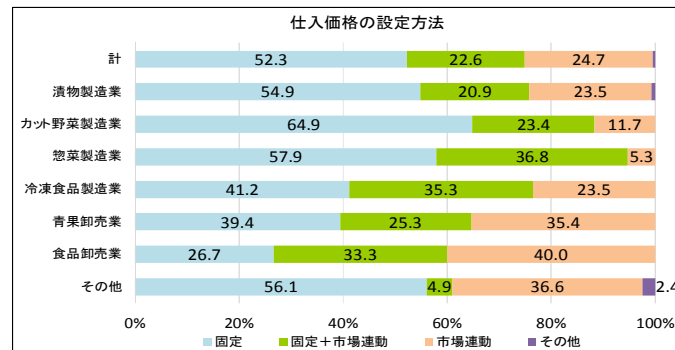
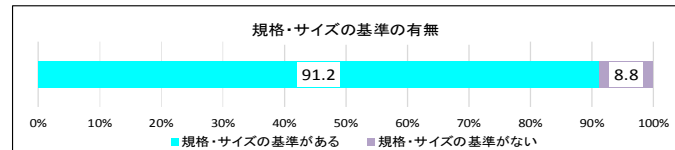
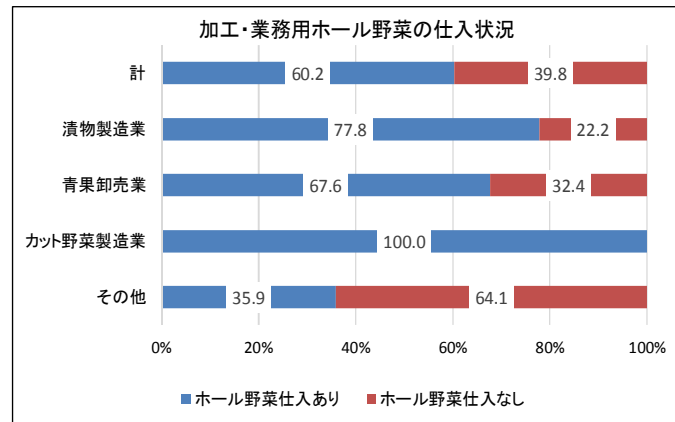
ホール野菜を取り扱う実需者・中間事業者は、国産野菜を中心に利用しており、多くの品目で、国産が「9割以上」とする回答の割合が80%以上を占めたが、輸入が多いたまねぎ、にんじんは60%台であった。

(4) 国産原料野菜の仕入上の課題

仕入上の課題としては、定時定量供給が32%、価格変動が30%と高く、ロットの確保や価格水準とともに、安定供給と価格安定が強く求められている。

(5) 国産原料野菜の品質規格・管理上の課題

品質規格・管理上の課題としては、規格・サイズが41%、加工歩留まりが22%、加工適性が10%を占め、これら加工効率の向上に係る課題が全体の73%を占めた。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 河原、斎藤、鈴木 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。